

『臨床真実士ユイカの論理 文渡家の一族』例会レジュメ

2016年12月17日

※出典元について

かつくらインタビューより……桜雲社から出ている『かつくら vol.14 2015 春』巻頭特集
古野まほろのインタビュー

『その孤島の名は、虚』インタビューより……『小説 野性時代 2014年11月号
Vol.132』内の『その孤島の名は、虚』刊行記念インタビュー

1. 作者の経歴

東大法卒。リヨン第3大法「Droit et Politique de la Sécurité」専攻修士課程修了、仏内務省から免状「Diplôme de Commissaire」授与。なお学位授与機構より学士（文学）。警察庁I種警察官として交番、警察署、警察本部、海外、警察庁等で勤務の後、警察大学校主任教授にて退官。宇山日出臣氏（故人）が発掘した最後の新人として、第35回メフィスト賞を受賞した『天帝のはしたなき果実』でデビュー。

（『その孤島の名は、虚』著者紹介より一部抜粋）

2. 作風

- ・ 近年では様々な作品を発表しているが、やはりメインはデビュー以来書き続けている本格ミステリ。しかし、具体的にどんな作品を書くのかは「完全受注性」であり、基本的に「あらゆる注文に応えます」というのが作者の姿勢。

（かつくらインタビューより）

- ・ 探偵小説のアトモスフィア、雰囲気重視し、そのための舞台設定を行う。
私の作品は平成の頭を舞台にするか、その前の物語が多いんですね。なぜかという
と、例えば情報通信機器と古典的な本格ミステリとは食べ合わせがよくないから。
（中略）それに、当然ですが、最新のものは必ず古びる。例えば「ポケベル」を書いた小説のように。私は中井英夫のような『同時代を永遠に古びさせないで物語る』天才ではないので、時代設定のため、ガジェットのため、あるいはライフワークその他、私の小説そのもののため、箱庭を作っているんだと思います。

（『その孤島の名は、虚』インタビューより引用）

- ・ 読者へのフェアプレイ精神を重視する。
- ・ 創作上の大きな転換であった『その孤島の名は、虚』
はじめのほうでお話しましたが、『月光ゲーム』と四大奇書の遺伝子を掛け合わせ

る。それか今までの作品の作り方です。その配合の結果が強くなるか弱くなるかは別として、そういうことをずっと続けてやってきました。けれど、そうではない、これまでとはまったく違うやり方をやってみようと思ったのが『虚』だったのです。

(かつくらインタビューより)

→天帝シリーズの世界観だけにこだわらない、という近年の傾向。今回の課題本もその流れにある1冊ではないか。

3. 作品について

○ 発売に際しての作者からのコメント

4月の新刊『臨床真実士ユイカの論理 文渡家の一族』（講談社タイガさん）は、久しぶりに高純度の本格に仕上げてみました。横溝テイスとクリスティーのテンポ、すなわち読み口のよい因果話(?)と犯人当てパズルが特徴です。古野本格の長編で一番短い本作、最初の1冊、最初の本格に是非！

(作者 Twitter より)

○ ユイカ的能力(障害)について

- ・ 他人の発言が客観的に真なのか偽なのか、また発言者から見て主観的にホントなのかウソなのかを見抜くことができる。
- ・ 前者について。こちらは、文全体としてその文が真なのか偽なのかを判定する。真偽の判定は記号論理学の規則による。命題として扱うことのできない文は、客観的な真偽について判定不能。
- ・ 後者について。こちらは、発言者が故意に嘘をつこうとして発言したものならウソ、そうでなければホントと判定される。客観的な事実とは食い違う場合もある。

ここで……「かつ」「または」「ならば」について

P	Q		PかつQ	PまたはQ	PならばQ
真	真		真	真	真
真	偽		偽	真	偽
偽	真		偽	真	真
偽	偽		偽	偽	真

P	Q		QでないならばPでない
真	真		真
真	偽		偽
偽	真		真
偽	偽		真

- 文渡家について
 - ・ 一族が暮らす文渡村へ入る手段はヘリコプターのみ。村の境界には越えることが困難な物理的障壁が存在する。15年間、徹底して閉鎖的な状況を維持し続けている。
 - ・ 91ページの医者 of セリフ
 - ・ 晩餐における、不自然なほどのドロドロ話

- 推理
 - ・ 読者への挑戦状の中で、『証言パズル』『家系図パズル』『数式パズル』を解くことで犯人が指摘できると明言している。
 - ・ 1つ目の推理

文1『犯人は佐吉家にはいない、または、犯人は信吉家にいる』

文2『犯人は章吉家にはいない、または、犯人は一族にいる』

文3『犯人は章吉家にはいない、または、犯人は一族にはいない』

これらが全て真である、という手掛かり。

 - ・ 2つ目の推理

文4 章吉家の血筋が存在するのなら、信吉家に犯人はいない

文5 実母である九美子がいるのなら、信佐および美佐は犯人ではない

文6 八人の文渡家一族が存在するのなら、使用人は犯人ではない。

文7 佐吉の妻である紗江子が存在するのなら、一族は犯人ではない

 - ・ その後

- 閉幕
 - ・ この物語でいちばんの嘘
 - ・ ラストの美佐の決断

- 4. まとめ
 - ・ 300ページというコンパクトな作品であるが、謎解きの面白さにあふれている作品。

- 5. 最後に

続編『臨床真実士ユイカの論理 ABX 殺人事件』
講談社タイガより2017年1月19日に発売予定!!!